

フレーズ & センテンス ①

雑草。そら中に生えていて、一年中見かけますが、「名前は?」と聞かれる分かるものは少ないのではないかと思います。今回紹介する本の著者も、そのような思いから雑草に興味を持つていたのだそうです。

雑草を知るためには、「雑草とはなにか?」を知ることが重要です。植物学上いくつか存在する雑草の定義の共通点は、人間の作りだした環境に勝手に生える草だということ。中には、人間に邪魔者扱いされた植物が雑草と呼ばれるという記述もあります。つまり、人間が誕生したから雑草も誕生したことになるのでしようか? こういったことを考へているだけで、時間が過ぎてしまいそうです。例えば食べられる野草たって、知らない人から見れば雑草になってしまいます。私たちがどんな目を雑草に向けるのかが問題なのだと本書では述べられています。

この本は、きっと雑草に向ける目が変わるきっかけになります。改めあなたの目から見た雑草は、どんな植物になっていますか? (生盛)

「でもですね、害草いやなくて、雑草なんですね」

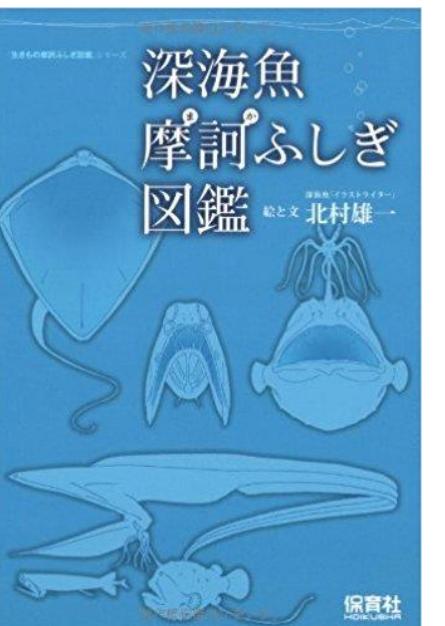
① 雜草が面白い
その名前の覚え方
盛口満/著 新樹社



読書の窓 ②

7月の第3月曜日は、国民の祝日「海の日」。「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」日として定められています。3連休でお出かけの予定を立てている多いのでは?

今回は、海は海でも、人類未到達の場所であり、未だ謎が多い深海に棲む生き物たちの図鑑『深海魚魔詞ふしき図鑑』を紹介します。



こんな本もありますよ
『海に沈んだ大陸の謎』
佐野 貴司/著 講談社
『ぼくの先生は東京湾』
中村 征夫/写真・文 フレーベル館

② 深海魚魔詞ふしき図鑑
北村 雄一/絵と文 保育社

ニッポンの ③ 文化探訪

今回取り上げる日本文化は「花火」。花火といえば、夏の風物詩ですが、今では一年中どこかしらで花火を見ることがありますね。



③
泉谷玄作 花火
彩華が紡ぎ出す四季のボエム
泉谷玄作/著 祥伝社

花火はもともと戦争の際にのろしで使われていました。日本で最初に鑑賞用の花火を見たのは徳川家康という説があります。江戸時代に花火は年中行事として確立していくようです。

『泉谷玄作 花火』には、全国の花火大会の写真がたくさん掲載されています。花火の写真の他にも、花火の鑑賞の手引きのページがあり、花火の名前から写真撮影のコツまで、ミニ知識が豊富に載っています。

花火の種類によって、撮影方法があるなんて、ご存知でしたか?

さて、今年の「足立の花火」は、7月21日(土)に行われる予定です。

1924(大正13)年に千住新橋の開通を記念して開催されたのが「千住の花火」のはじまりです。花火の種類や名前などを知つてから鑑賞すると、今までとはまた違う楽しみ方ができますね! (大瀧)

再生館 再セレクト ④

こちらのコーナーでは、あだち再生館のおすすめ講座と、講座に関する本を紹介します。

7月のおすすめ講座は、夏休み特別講座「親子で天体望遠鏡作り」です。

『星座を見つけよう』の著者は、「おさるのジョージ」シリーズで知っているH. A. レイです。ひとつひとつわかりやすく書いてあるので、こどもから大人まで楽しめる本になっています。この本をお供に、親子で天体観察をしていかがでしょう。

夏休み特別講座「親子で天体望遠鏡作り」

- 日時: 7/29 (日) 午前10時~正午
- 対象: 区内在住・在学の小学生と保護者
- 内容: 星座を観察する天体望遠鏡を作り、地球環境・宇宙について学ぶ
- 定員: 20組(1組2人 抽選・当選者のみはがきで通知)
- 費用: 1組2,500円(材料費など)
- 持物: セロテープ、木工ボンド、輪ゴム6本、はさみ、お手拭き
- 申込: 電話・窓口または住所、氏名(フリガナ)、電話番号、「天体望遠鏡作り」をハガキ、ファックスで送付
- 期限: 7/22 (日) 必着
- 場所・問い合わせ先: あだち再生館(月曜日、祝日休館)
〒120-0011 中央本町2-9-1
TEL: 3880-9800 FAX: 3880-9801